

令和4年度 第3回 学長選考・監察会議議事要録

日 時：令和4年7月28日（木）15：29～16：41
場 所：オンライン会議（Teams）
出 席 者：種田委員（議長）、尾崎委員、小野寺委員、佐々木委員、沼田委員、
原口委員（人文社会科学部長）、野崎委員（教育学部長）、
岡田委員（理学部長）、乾委員（工学部長）、宮口委員（農学部長）
西川委員（全学教育機構長）
欠 席 者：生田委員
監事監査規則第9条第2項による出席者：人見監事

議 題 審議事項

- 1 学長の業績評価について
- 2 その他

議 事 概 要

I 議事要録の確認

議長から、令和4年度第2回の学長選考・監察会議議事要録について、既に委員の皆様にご確認いただき、大学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

II 審議事項

1 学長の業績評価について

事務局から、学長の業績評価について、本日は学長によるプレゼンテーション及び質疑応答、委員による意見交換を行い、後日、各委員からの評価コメントを提出いただき総合評価書の原案を作成する。その原案を各委員へ送付し、いただいた意見を参考にしうえで、最終決定した総合評価書を議長から学長へ伝達するとともに、大学ホームページ上で公表する旨説明があった。

(1) 学長のプレゼンテーションについて

学長から配付資料に基づきプレゼンテーションが行われた。

(2) 学長との質疑応答について

学長と学長選考・監察会議委員による質疑応答がなされた。

【主な質疑応答】○委員 ●学長

- 近年、人口減少社会の中で、地域間競争も激しくなっており、地方大学を取り巻く環境も厳しさを増しているが、そのような競争において、茨城大学はどういった取組で勝負していくのか、決め手となる取組があればお聞かせいただきたい。
- 地域との連携が重要と考えている。構想中の新たな教育組織においても、地域の企業・自治体と一緒に学生を育てていくこととしており、その中で学生が地域の現場に出ていくことで、大学と地域をつなぎ、地域活性化などの地域課題の解決につ

なげることができると考えている。

加えて、新たな高大接続の取組として、高校からの一貫した教育マネジメントを実施する中で、茨城県という地域を支える人材の育成に取り組んでいく。

- 学長のプレゼンテーションの中で、運営費交付金の配分に影響する研究に関する共通指標の 2019 年度実績について、厳しい結果が示されているが、一方で、企業等との受託・共同研究に関しては素晴らしい実績をあげている。これは、科研費等の基礎研究を更に強化する必要があることを示しているが、さらに高い目標を掲げる必要性も含め、目標の水準についてどのように考えているか。
- 科研費に関する目標設定に関しては、現状を踏まえつつ、他大学をベンチマークとし、実現可能性を考慮して設定している。
科研費の獲得に関しては、大学の使命でもあると考えており、引き続き、研究マネジメントの取組を進めていく。
- 全国的な教員養成の課題として、小学校教員の英語力向上、高学年の教科担任制における理科教育の強化があげられる。理科教育に関しては、あまり理科（特に物理、化学）の得意でない学生が教員養成学部に入學して教員になり、その授業を受ける小学生の理科嫌いにつながるなど、構造的な課題があると考えているが、そうした課題に対してお考えがあればお聞かせいただきたい。
- 教員養成に関しては、本日のご意見も含めて、茨城県や教育学部としっかりディスカッションしながら取組を進めていきたい。
学生の英語力向上に関しては、TOEIC のモニタリングなどを含めて取組を進め、DP 達成度は順調に伸びてきているが、十分な水準とはいえないため、引き続き、第 4 期中期目標・中期計画期間の課題と捉えている。
- ロシアによるウクライナ侵攻を受け、国や全国の大学において、人道支援や留学生受入などの取組が行われているが、茨城大学では何か取り組まれているか。
- こうした取組は、既存のつながりを契機とすることが多いと思われるが、本学は、ウクライナとの教育研究活動等の教員ベースでのつながりがなく、本学に対する支援の要請がないため、これまでに支援、留学生受入等の取組は行っていない。
一方で、もし要請があれば、協力したいと考えている。
- 経営協議会等での説明においては、農学部の女子学生が増加しているとの説明があったが、その要因はどのように考えているか。
- 農学部については、平成 29 年度の改組において、食品に焦点をあてた学科を設置しており、それが女子学生増加の一因と考えている。また、東南アジアの大学と連携した国際的な教育に女子学生が興味を持っているのではないか。

(3) 業績評価に関する意見交換について

学長選考・監察会議委員による意見交換が行われた。

【主な意見等】 ○委員 ●議長・事務局

- DP 達成度に関する学生アンケートや就職アンケート結果など、数値として結果が出ているほか、新型コロナウイルス感染拡大を受けた学生支援などに取り組み、

かなり努力の成果がみられる。

一部、茨城県の教員採用におけるシェアの向上や科研費の獲得などの課題もあるが、改善のための取組を進めており、今後、成果として現れてくるのではないかと。

- 学長業績評価結果については、大学のホームページで公表予定とのことであるが、これまで実施した学長業績評価結果に対し、学内外から反応や意見等があったか。
- 学長業績評価結果については、過去の結果も含め、大学のホームページにまとめて公表しているが、個別の意見等は把握できていない。

2 その他

次回は令和5年1月に開催予定。